学校だより

桑山っ子

三豊市立桑山小学校
令和６年３月 13 日
№２６
文責：伊賀由美子

桑山ヤギ物語

本年度初め、私は全校の子どもたちにこんな呼びかけをしました。「学校でヤギを飼っていたときがあるらしい。お家の人から情報を集めてきてほしい。」この呼びかけに応じてくれ、お家のかたに聞いてくれた子どもたちから挙がったのが、「ミルク」「ミルキー」「ストロベリー」「ブルーベリー」という名前でした。しかしながら、それを確かめるすべもなく、どうしたものかと思案しておりました。

その後、当時桑山小に勤務していた吉田匡克先生や池田先生のからの情報で、「ミルキー」はいたこと、ヤギを飼っていたクラスの担任の先生がおいでるところまではが分かりました。そして今年１月、本校に勤務することになった林栄子先生が、まさにヤギを飼っていたクラスの先生であることが分かり、やっとその全貌が明らかになりました。

ブルーベリー

１９９７（平成９）年、桑山小学校３年の教室に１匹の子ヤギが連れてこられました。生後２か月の子ヤギの名前は、「ブルーベリー」。初めは、学校で先に飼われていたウサギと同居していましたが、１０日後には新しい小屋も建ててもらい、クラスの子どもたちと楽しく過ごしていました。しかし、わずか２４日後、野犬の襲撃にあい、ブルーベリーは瀕死の重傷を負います。子どもたちの祈りが届いたのか、ブルーベリーは生命力の強さで一命をとりとめます。しかしながら、９日後、体調不良がたたり亡くなってしまいました。クラスの子どもたちは、涙ながらにお葬式をしたということです。

ミルキー

次の年（平成 10）、進級し４年生となった子どもたちは、もう一度ヤギを飼ってみようと決意をします。そして、担任の先生がヤギ牧場から連れてきてくれたのが、生後３か月の雌の子ヤギでした。名前は「ミルク」になりそうだったのですが、校長先生の「『ミルキー』がええやろが」の一言でミルキーと決定しました。この４年生は、ミルキーの世話をするなかで湧いていた多くの疑問を調べながら、お世話をしっかりと行いました。また、ミルキーも病気になったようですが、子どもたちの献身的な介護で回復したとのことです。翌年（平成１１）には、飼育委員会が中心にミルキーのお世話をすることとなり、全校生が関わることとなりました。１年後立派に成長したミルキーは、もといたヤギ牧場に戻ることになり、桑山小学校を去っていきました。

ヤギを育てるにあたり、当時の保護者の皆さんに多大なご協力をいただいたと、林先生はおっしゃいます。このヤギを育て、関わった子どもたちは、桑山小学校に通う子どもたちの保護者さんとなり、桑山小学校をバックアックしてくださっています。ひょんなことから、調べ始めたヤギについてですが、当時学校の景色を垣間見ることができ、また、保護者や地域の皆さんとのつながりを感じることができ、温かい気持ちになりました。

現在、桑山小学校に通っている子どもたちには、どのような景色が思い出として刻まれているのでしょうか。桑山小学校での思い出が、成長していく子どもたちに微笑みと勇気を与えてくれるものになることを願い、楽しい学校づくりに努めてまいります。

「ハッピー子育てかるた」第 10 号を C4th メールにて送信しています。ご覧ください。
なお、バックナンバーは県教委 HP に掲載されています。（「かがわの家庭教育で検索」）